集団関係におけるメタステレオタイプの影響

教育心理学コース　　高　　遠

The Influence of Meta-stereotypes on Intergroup Interaction

Yuan GAO

Meta-stereotypes refer to individuals' beliefs about how their group is viewed by a particular out-group. In recent years, research has shown that meta-stereotypes have a very important influence on intergroup relations. However, it finds that the previous studies have produced inconsistent results on the effects of meta-stereotypes. The importance of examing the nature of intergroup relationships and identification are discussed.

目　次

はじめに
１章　メタステレオタイプとは何か
　A．メタステレオタイプに関連する諸概念とメタステレオタイプ
　　１．内集団と外集団
　　２．ステレオタイプとメタステレオタイプ
　B．メタステレオタイプの特徴
　　１．文脈性
　　２．認知面
　　３．行動面
２章　集団関係に関わるメタステレオタイプの先行研究
　A.「相互主義」によるメタステレオタイプの影響
　B.「印象改善動機」によるメタステレオタイプの影響
３章　集団関係におけるメタステレオタイプの課題と展望
　A．集団間の関係性について
　B．集団同一視検討の必要性
むすび

はじめに

自分が所属していない集団の知らない人に会いに行くとき，例えば，他の大学の全く知らない人に会いに行くとき，あなたは何を考えるだろうか。もし相手がランキングの高い大学に所属していると，「偏差値の高い大学だから，その大学の人は頭がよい。皆エリートだから，偉そうにしているんだ」というように考えるだろう。しかし，実際には，その大学の全ての人が「頭がよくて，偉そうに」しているわけではないだろう。このように，ある集団に所属する人々に共通に存在するかのように思ってしまう特性のことを，その集団に対するステレオタイプという。ステレオタイプは，相手の集団に対する自身の好悪の感情に影響し，集団間の関係に強い影響を与える。

また，「相手がどのような人」だけではなく，「相手が自分たちをどのように思っているか」ということも考えるだろう。例えば，「自分の大学より相手の大学の偏差値が相当に高いから，あの大学の人たちは，自分たちを馬鹿にしているんだ」というように考えるかもしれない。このような認識は，自分の所属する集団が，他の集団に所属する人々から，どのようなイメージを抱かれているのかという自身の信念である。このように自分が所属していない集団の人々が，自分の所属している集団に対してどのようなイメージを持っているかに関する信念はメタステレオタイプと定義されている(Vorauer, Main, & O'Connell, 1998)[39]。このようなメタステレオタイプには，自身の集団に対する評価が関わるため，ステレオタイプ以上に，集団関係に重要な意味をもつ可能性がある。

従って，集団同士がお互いの理解を深め，集団関係を良好にするためには，メタステレオタイプの研究が非常に重要だといえるだろう。しかし，従来の研究は他者に対するステレオタイプの研究を行ったものが多く(e.g., Crocker & Major, 1989[5]; Crocker, Major, & Steele, 1998[6]; Crocker, Voelkl, Testa, & Major, 1991[7]; Steele, 1992[29], 1997[30]; Swim & Stangor, 1998[33])，自集団に対する評価に関わるメタステレオタイプの研究は未だ十分

ではない。本論では，メタステレオタイプに関する先行研究を概観し，集団関係におけるメタステレオタイプの影響を探ることを目的とする。メタステレオタイプを通じて，集団関係が改善される可能性があるのかについて論じ，将来の研究の方向性を提案したい。

1章　メタステレオタイプとは何か

A　メタステレオタイプに関連する諸概念とメタステレオタイプ

1　内集団と外集団

人は，他の大多数の動物と同様に，群れる本能がある。世界の中には，様々な群れが存在する。例えば，世界には様々な国がある。国の中には，様々な民族がある。また，居住地域には，趣味などによって特有の集まりが形成される。そして，これらの様々な国，民族，特有の集まりは，それぞれが「集団」だと言える。同じ集団に属する人々は，集団に特有のルールや価値観を持ち，特有の集団文化や行動様式を形成する。

ここで，自分が属する集団のことを内集団という。一方，自分が属していない集団は外集団という。人は特定の集団に所属すると，内集団に対して強い繋がりを感じて優越感を持ちやすくなる一方，外集団に対しては，偏見や差別的な態度を持ちやすくなる。このように，人は内集団と外集団を「我々と他者」のように強く区別する傾向がある。内集団は，個人が自らを同一視し，所属感を抱く集団である一方，外集団は，個人にとって「他者」と感じられる集団で，競争心，対立感，敵意などが向けられる対象となる (Sumner, 1906 青柳他訳 1975)[31]。内集団の成員に対して，より好意的な認知・感情・行動を示す傾向があり，肯定的な印象を持ちやすく (Tajfel, Billig, Bundy, & Flament, 1971)[36]，一方で，外集団の成員に対しては敵対的な感情を抱きやすいことが示されている (例えば，Tajfel, 1982[35])。

また，内集団に対して，様々な個性を持った多様な者の集まりだと考える傾向がある一方，外集団に対しては，その構成員が同種の集まりだと考える傾向があることが示されている (Park & Rothbart, 1982)[26]。このように，外集団の構成員は同種の集まりだと考える傾向があるため，外集団の者は「カテゴリー化」されやすく，同じ共通点があると思われやすい。これは外集団に対して，ステレオタイプが生じやすいことを意味する。

2　ステレオタイプとメタステレオタイプ

ステレオタイプとは，「ものの見方，態度や文章などが型にはまって固定的であること」だという (村松，2006)[22]。人間はものを型にはめて理解する傾向がある。ものを型にはめると，それを単純化，標準化し，より簡単に人々に伝えることが可能になる。特に，人間の社会においては，より簡単に互いの情報を把握できるように，人々を集団という型にはめて理解する傾向がある。

いうまでもなく，集団は，様々な人々によって構成されている。しかし，集団の人々の多様性には目を向けずに，多くの者に共通する点から，その集団のイメージを形成することが多い。例えば，「女の子は数学が苦手だ」，「ブラジル人はサッカーが上手い」などである。このように特定の集団に対するイメージを，あたかも集団に所属する全ての者にあてはまるかのように認識してしまうことがある。「人々を分けるカテゴリーに結びつき，そのカテゴリーに含まれる人が共通してもっていると信じられている特徴のこと」を集団に対するステレオタイプという (上瀬，2002)[38]。

ステレオタイプの内容には自集団に関係しない側面と自集団に関係する側面の両方が含まれるという (Wilder, 1984)[41]。例えば，「日本人は真面目だ」，「欧米人は背が高い」などのようなステレオタイプは自集団に関係しないものである。従来の研究では，「ステレオタイプ」というと，自集団に関係しない側面ばかりに焦点をあてて研究がなされてきた。しかし，ステレオタイプには自集団に関係しない側面だけではなく，自集団に関係する側面もある。例えば，「その学校の人たちは私たちが頭の悪い人だと考えている。私たちに対して優越感を抱いている」といった認知も「カテゴリーに含まれる人に共通すると信じられている特徴」である。Vorauer ら (1998)[39] は，自集団に関係する側面をさしたものをメタステレオタイプと定義した。ゆえに，メタステレオタイプとは，「外集団の人々が内集団の人々に対してどのようなイメージを持つかに関する認知」と定義される (Vorauer, et al., 1998)[39]。

Vorauer ら (1998)[39] は，集団関係において，メタステレオタイプの影響が他のステレオタイプより大きいという仮説を立てた。例えば，集団関係の悪さに対しては，外集団に対して悪いイメージを抱くことより，外集団の者が自身の所属する集団のことを好きではないというイメージを抱くこと (メタステレオタイプ) のほうが説明力を持つという仮説である。その後，Kim & Oe (2009)[18] の研究では，韓国人に対する日本人のメタステレオタイプは日本人の韓国人に対する態度と関連がみられた。韓国人からネガティブな見方をされていると意識していた日本人は，韓国人に対しても同様

にネガティブな態度を抱いたことが示された。一方，韓国人に対する日本人の他のステレオタイプは日本人の韓国人に対する態度と関連がみられなかった。従って，集団関係を良好にするためには，集団間のメタステレオタイプの影響について理解する必要があると考えられ，メタステレオタイプに着目することは重要な意味をもつ。それでは，メタステレオタイプには具体的にどのような特徴があるのだろうか。

B　メタステレオタイプの特徴

Vorauerら(1998)[39]の研究では，メタステレオタイプ特徴として，以下のものをあげている。

1　文脈性　メタステレオタイプの内容が外集団によって異なる。例えば，外集団が，ビジネスマネジメント専攻の学生であるか芸術専攻の学生であるかによって，心理学科の学生が持っているメタステレオタイプの内容に違いがみられることである(Oldenhuis, 2007)[23]。また，同じ外集団でも，その場での外集団との関係性によってメタステレオタイプが変化する可能性もある。例えば，女性は男性と仕事をするときよりデートする場合のほうが，より多くのポジティブなメタステレオタイプを経験することが報告されている(Koudenburg & Gordijn, 2011)[20]。

2　認知面　メタステレオタイプは外集団あるいは内集団に対する認知に影響を与える。

メタステレオタイプは外集団の人々が内集団に対してどのようなイメージを持っているかに関する認知といえる(Vorauer, et al., 1998)[39]。このような認知は他者ステレオタイプ(内集団が外集団に対して抱くイメージ)あるいは自己ステレオタイプ(内集団が内集団に対して抱くイメージ)(Steele, 1997)[30]に影響を与える可能性がある。メタステレオタイプが他者ステレオタイプに影響を与えるのは，例えば，外集団が自集団に持っているネガティブなイメージに賛成せず，自分自身の知覚が正しいと考える場合，外集団のメンバーに対してネガティブな態度を持ち，外集団にもネガティブなステレオタイプを持つことである(Kim et al., 2009)[18]。一方，メタステレオタイプが自己ステレオタイプに影響を与えるのは，例えば，ネガティブなメタステレオタイプが活性化されたことで，自集団に対する自己ステレオタイプの正しさの信念が揺れ，自集団が本当にそのようなネガティブなステレオタイプを持っていると信じることになる場合である。この場合，彼らの内集団に対する集団同一視と自尊心が低くなることが示されている(Owuamalam & Zagefka, 2011)[25]。

3　行動面　メタステレオタイプは，外集団に対する行動にも影響を与える。外集団の者が自集団に対してネガティブなイメージを持っていると考えたとすると，その後の外集団に対する行動にも影響が及ぶ。

例えば，その集団との接触を回避したり(Finchilescu, 2010)[8]，敵対的な反応を示したりをする(Kamans, Gordijn, Oldenhuis, & Otten, 2009)[17]。また，近年の研究では，ネガティブなメタステレオタイプが集団関係にポジティブな影響を与えるという知見もある(Hopkins, Reicher, Harrison, Cassidy, Bull, & Levine, 2007[16]; van Leeuwen & Täuber, 2012[40])。

本論では，メタステレオタイプが外集団に対する行動にどのような影響を及ぼすかを実証的知見をもって論じることを目的とする。

2章　集団関係に関わるメタステレオタイプの先行研究

従来の集団関係に関する論文においては，集団間差別などの集団関係の問題を改善するため，さまざまな方法が示されてきた。例えば，個人間や集団間のコンタクトを増加させる方法(Pettigrew, 1997[27])や，社会カテゴリーを減少させる方法(Tajfel, Turner, 1979)[37]，共通の内集団同一視を形成させる方法(Gaertner, Dovidio, Anastasio, Bachman, & Rust, 1993[11]; Gaertner, & Dovidio, 2000[10]; Gaertner, Rust, Dovidio, Bachman, & Anastasio, 1994[13]; Gaertner, Dovidio, & Bachman, 1996[12])，ステレオタイプの情報に反対すること(Mackie, Allison, Worth, & Asuncion, 1992)[21]などである。それだけではなく，人は社会的意識を持っているため，集団間で関わりを持つ前に，まず外集団の自集団に対する評価を考える傾向がある。すなわち，メタステレオタイプを活性化させる。このようなメタステレオタイプが他集団に対する態度や行動に強い影響を与える(e.g., Kim, et al., 2009[18]; Finchilescu, 2010[8]; Kamans, et al., 2009[17]; Hopkins, et al., 2007[16]; van Leeuwen, et al., 2012[40])ため，良好な集団関係を築くために，メタステレオタイプに着目することは重要な意味をもつだろう。しかし，このような研究は未だ少ない。

本章では，メタステレオタイプに関する先行研究をレビューすることで，活性化されたメタステレオタイプが集団関係にどのような影響を与えるのかを整理する。

A　「相互主義」によるメタステレオタイプの影響

「私のことを好きでないなら，私もあなたのこと好

きではない」。このように，他人に対する態度や行動は，他人が自分に対してどのような態度や行動をするかによって決まることがよくある。Oldenhuis (2007)[23] はこのような現象を「相互主義」という言葉を用いて解釈している。人とのやりとりにおいて，「相互主義」は一つの重要な動機づけとして，人の態度や行動に影響する(Gouldner, 1960)[15]。個人関係だけではなく，集団関係においても，相互主義は一つの重要な要因として人の態度や行動に影響を与える。

例えば，「韓国人たちが我々日本人に対してネガティブな感情を抱えている」と思う日本人のほうが，韓国人に対して同じようにネガティブな態度を示す(Kim, et al., 2009)[18]。また，オランダ系の白人とモロッコ系オランダ人の集団関係における実験では，「オランダ系の白人がモロッコ系オランダ人は犯罪者，攻撃的だと思っているに違いない」と，モロッコ系オランダ人が考えると，彼らはより犯罪的，攻撃的な行動を行うことが明らかにされた(Kamas, et al., 2009)[17]。これらの研究により，「相互主義」に沿って，ネガティブなメタステレオタイプが集団関係にネガティブな影響を及ぼすことがわかってきた。また，ネガティブなメタステレオタイプだけではなく，ポジティブなメタステレオタイプにおいても，「相互主義」によって説明できると検証されてきた。

アメリカ人に対して低い偏見を持つオランダ人が，「アメリカ人は我々オランダ人が寛容な人だと思っている」というポジティブなメタステレオタイプを考えると，より寛容性を表すということが示された(Oldenhuis, 2007)[23]。

以上より，「相互主義」により，ネガティブなメタステレオタイプが活性化されると，そのネガティブなメタステレオタイプに沿って行動する。一方，ポジティブなメタステレオタイプが活性化されると，そのポジティブなメタステレオタイプに沿って行動する。しかし，ここで配慮しなければならない要因が一つがある。それは相手の集団に対する偏見である。

偏見とは，「ある集団に所属している人が，単にその集団に所属しているからとか，それゆえにまた，その集団のもっている嫌な特質をもっていると思われるとかという理由だけで，その人に対して向けられる嫌悪の態度，ないしは敵意ある態度」のことをいう(Allport, 1961 原谷他訳 1968)[2]。相手の集団に対して，偏見の高さの個人差はメタステレオタイプの影響のあり方に関わることが指摘されてきた。偏見が高い者は，ネガティブなメタステレオタイプに同化する行動を行う傾向がある。例えば，オランダ系の白人に対して，高い偏見を持つモロッコ系オランダ人のほうが，ネガティブなメタステレオタイプ(犯罪的，攻撃的)に沿って行動を行うこと(Kamas, et al., 2009)[17]が示された。同様に，Oldenhuis (2007)[23]の研究では，キリスト教の学生に「キリスト教でない学生たちは我々のことが保守的だと思っている」というネガティブなメタステレオタイプを活性化させると，キリスト教でない学生たちに高い偏見を持つキリスト教の学生のほうがより保守主義を強調するということが指摘された。よって，偏見が高い者が，ネガティブなメタステレオタイプを有し，外集団が自集団に対して良くないイメージをもっていると思っている場合には，外集団に対してネガティブな行動を行う。

一方，偏見が低い者には，外集団とポジティブな関係を強めようとする動機がある(Boyanowsky & Allen, 197[33]; Swim, Ferguson, & Hyers, 1999[32])。偏見が低い者は，ポジティブなメタステレオタイプに同化する行動を行う傾向があることが知られている(Oldenhuis, 2007)[23]。

以上より，ネガティブなメタステレオタイプは，ネガティブな行動につながり，ポジティブなメタステレオタイプは，ポジティブな行動につながることがわかる。しかし一方で，上述したメタステレオタイプの効果とは相反する結果も得られている。

B　「印象改善動機」によるメタステレオタイプの影響

近年のメタステレオタイプの効果研究においては，「相互主義」に反する知見が得られている。それは，ポジティブなメタステレオタイプより，ネガティブなメタステレオタイプのほうが外集団に対する行動にポジティブな影響を与えるという知見である。

人は，外集団の内集団に対するイメージのポジティブな側面を確認しようとする一方，ネガティブな側面に反対する傾向にある(Klein & Azzi, 2001)[19]。例えば，Hopkins ら(2007)[16]の研究では，「スコットランド人がけちな人だとイングランド人が思っているに違いない」と，スコットランド人が考える場合，自分の集団がけちな集団ではないと証明するために，スコットランド人は外集団のウェールズ人により多くの援助行動を行ったと示されている。しかし，この研究では援助した外集団が，メタステレオタイプの対象としてイングランド人の集団ではなかったため，ネガティブなメタステレオタイプに関係する二つの集団関係にどのような影響を与えるかが検証できなかった。その後，van Leeuwen ら(2012)[40]の研究では，ベルギー人

がオランダ人に対して抱いているイメージ(自己中心的，利己主義，けちくさい)を含む文章(実験群)と含まない文章(コントロール群)をオランダ人学生に提示した後，オランダを訪れたベルギー人の学生に一連の援助行動をしたいかどうかについて質問した。その結果，実験群の協力者では，より多くの援助行動を行うという結果が得られた。また，この研究では，ネガティブなメタステレオタイプの条件だけではなく，ポジティブなメタステレオタイプの条件下，援助行動がどうなるかについての検討も行った。その結果，ポジティブなメタステレオタイプよりネガティブなメタステレオタイプを与えたほうが，外集団により多くの援助行動を行うことが示された。

van Leeuwenら(2012)[40]は，その結果が得られた理由を印象操作動機によって解釈した。印象操作動機とは，社会における相互作用において，情報の規制やコントロールをするため，人，物，あるいはイベントに対する他者の知覚に影響を与えようとする意識的，あるいは無意識的なプロセスのことである(Piwinger & Ebert, 2001)[28]。印象操作理論においては，個人や集団は，自分あるいは自集団に対する他者のイメージが，こう思われたいと望むイメージと一致するように自分あるいは自集団のイメージを打ち立てるとされている(Goffman & Erving, 1959)[14]。人は自集団に関するポジティブな特徴を確認したがり，ネガティブな特徴を拒絶する傾向があるのである(Klein et al., 2001)[19]。

以上より，ネガティブなメタステレオタイプを与える場合のほうが，印象操作動機が働き，ポジティブなメタステレオタイプを与える場合より，ポジティブな行動につながることがわかる。

3章　集団関係におけるメタステレオタイプの課題と展望

以上，メタステレオタイプが集団関係に及ぼす影響の研究を外観した。本章では，2章を踏まえた上で，集団関係におけるメタステレオタイプ研究の課題と今後の展望を示す。

A　集団間の関係性について

前述したように，メタステレオタイプが集団関係に与える影響は一貫していないことがわかる。なぜ「相互主義」によりネガティブなメタステレオタイプがネガティブな行動につながり，ポジティブなメタステレオタイプがポジティブな行動につながる場合と，「印象操作動機」によりポジティブなメタステレオタイプよりネガティブなメタステレオタイプのほうがよりポジティブな行動につながる場合があるのだろうか。このことに問題意識をもち，集団関係におけるメタステレオタイプの研究において現在何が足りないのかを述べ，将来望まれる研究の方向性を提案する。ここでは，なぜ「印象操作動機」が働く場合と働かない場合があるのを中心に考える。

自集団の良くないイメージを変えようとするとき，まず，欠かすことのできない条件は，そのよくないイメージを変える能力があることだと考えられる。集団間の関係性が対等でない場合(例えば，マイノリティ集団とマジョリティ集団，あるいは低地位集団と高地位集団)，マジョリティ集団あるいは高地位集団は自分の地位を確保し，社会の制度やルールを自分の意識で動かし，自身の権力を正当化するため，マイノリティ集団あるいは低地位集団のネガティブなステレオタイプを維持する傾向がある(Fiske, 1993)[9]。そのため，マイノリティ集団あるいは低地位集団は，内集団の力が弱く，自己表象による内集団のイメージを変化させることが難しいと意識するだろう。また，社会の資源配置の不平等や差別などの社会問題が生じ，偏見の度合いの高い人たちが，「失うものは何もない」といった立場になると感じ，内集団ひいき，外集団に損害を与えるような極端な行動が増加する(Scheepers, Spears, Doosje, & Manstead, 2006)[34]。従って，集団間の関係性が対等でない場合，ネガティブなメタステレオタイプが活性化されると，マイノリティ集団あるいは低地位集団がそのネガティブなメタステレオタイプに一致する行動を行うのではないかと考えられる。一方で，マジョリティ集団あるいは高地位集団の場合には，内集団の力が強く，自己表象により内集団のイメージを変化させることができると意識するだろう。しかし，先述したように，マジョリティ集団あるいは高地位集団が自分の地位を確保したり，社会資源を支配したりするために，内集団に対するマイノリティ集団あるいは低地位集団(特に偏見の度合いの高い人)が持っているネガティブなイメージを変えようとはしないかもしれない。この場合，ネガティブなメタステレオタイプを変える能力があるとしても，内集団の利益に対する影響がないため，そのネガティブなメタステレオタイプを変える必要がないだろう。従って，「印象改善動機」が働かないのは，よくないイメージを改善する能力がないこと以外に，改善する必要がないのも一つの重要な要因ではないかと考えられる。

同じ社会の中のマイノリティ―マジョリティ集団，あるいは低地位集団―高地位集団のように対等でない集団間の関係性だけではなく，同じ社会資源を共有していない，あるいは社会資源を平等に共有しているような集団間の関係性もあるだろう。例えば，二つの国の関係性の場合，お互いに独立な社会資源を持っていても，相手の国と重要な利益関係を持っていたとしたら，自分の国に対して相手の国のネガティブなイメージが自国の利益に影響を与えるため，そのネガティブなイメージを変えようとするだろう。一方で，相手の国と重要な利益関係を持っていなければ，相手の国にどのように見られるかを気にしないだろう。この場合，相手の国が持っているネガティブなイメージを変えようとする動機がなくなると考えられる。

以上より，メタステレオタイプが「相互主義」によって働くか，「印象操作動機」によって働くかを検討するとき，その二つの集団の関係性を検討する必要があると考えられる。一つは，メタステレオタイプを変える能力があるかどうか，もう一つは，メタステレオタイプを変える必要があるかどうかということである。

B　集団同一視検討の必要性

メタステレオタイプが集団関係に及ぼす影響の在り方を検討する際，偏見以外に，もう一つ考慮しなければならない個人差は集団同一視だと考えられる。

集団同一視とは，「個人が集団に所属することで自らを集団の成員と同一視していくという現象」と定義されている(赤須・木藤，2011)[1]。よって，集団同一視の高い者は，その集団に対する社会的アイデンティティが強く，その集団の成員としての意識も強い。従って，集団同一視の高い者の場合，外集団が内集団と異なるという意識が鮮明に生じる一方，集団同一視が低い者の場合，外集団と内集団を区別する意識が薄いと考えられる。

これは，内集団の特性に対するポジティブあるいはネガティブな印象に対する反応の程度が，その集団に対する同一視の程度によって異なることを意味する。集団同一視の高い者は，外集団の者が自集団の者と異なるという意識が鮮明に生じる。そのため，自身の所属する集団の特性に対して，外集団からどのような印象をもたれているかに敏感であると考えられる。さらに，集団同一視の高い者は，より内集団のよいイメージを守る，あるいは促進する意欲があることが知られている(Branscome, Ellemers, Spears & Doosje, 1999)[4]。

一方，集団同一視が低い場合，外集団と内集団を区別する意識が薄い。そのため，自身の所属する集団の特性に対して，外集団からどのような印象をもたれていても，その印象が自身に関与するものだという当事者意識が薄く，その結果，メタステレオタイプの影響を受けにくいと考えられる。

従って，メタステレオタイプが集団関係に与える影響は集団同一視が高いほど大きいと予想される。実際，Owuamalam, Tarrant, Farrow, Zagefka (2013)[24]の研究では，集団同一視が低い群より高い群のほうがよりメタステレオタイプの影響を受けやすいことが明らかになっている。

以上より，メタステレオタイプの影響の在り方を検討する際に，個人の集団同一視の高低を考慮することが必要だと考えられる。

むすび

本論では，まずメタステレオタイプの概念及び特徴を整理した上で，集団関係におけるメタステレオタイプの実証的研究を概観した。しかし，メタステレオタイプが集団関係に与える影響は一貫していないことがわかった。なぜ先行研究において一致する結果が得られなかったのか，今後どのような視点に着目して研究を行うべきかについて提案を行った。

メタステレオタイプが社会心理学の研究分野の一つとして注目されてきたのはここ数十年の間であり，集団関係に非常に重要な意味を持つと言われてきている。しかし，今までのメタステレオタイプに関する研究はまだ十分ではなく，整った理論体系はまだ形成されていない。特に，先行研究は欧米文化を背景として研究をしているが，文化が異なるアジア系の国を対象とした研究がほとんどない。従って，日本，韓国や中国などのようなアジア系の国を対象としての研究が必要ではないかと考えられる。

従来の先行研究では，単一の集団間の関係性を用いて，メタステレオタイプが集団関係に与える影響を検討していた。これは，従来の研究では，集団間の関係性や集団同一視という個人差に関わらずメタステレオタイプが一様の影響を与えることを前提とした研究デザインになっていたことを意味する。本論文では，一貫していなかった結果を整合的に説明できるように，集団間の関係性と個人差の視点から従来の研究を整理した。今後，本論を参照に，集団間の関係性がメタステレオタイプの効果に与える影響を検討するために，独立した集団間の関係性とマイノリティ―マジョリ

ティの集団間の関係性を用いて，研究のデザインを工夫する必要があるのではないかと考えられる。メタステレオタイプを問う研究が活発になされ，その集団関係の改善に対する意義をめぐる議論が重ねられることを願ってやまない。

引用文献

1）赤須大典・木藤恒夫 (2011). 集団表象と自己表象の一致性と集団同一視との関係　*Kurume University Psychological Research, 10*, 31-38.

2）Allport, G. W. (1958). *The Nature of Prejudice*. Cambridge, MA: Addison-Wesley. （オルポート, G. W. 原谷達夫・野村昭夫 (訳)(1968). 偏見の心理　培風館)

3）Boyanowsky, E. O., & Allen, V. L. (1973). Ingroup norms and self-identity as determinants of discriminatory behavior. *Journal of Personality and Social Psychology, 25,* 408-418.

4）Branscombe, N. R., Ellemers, N., Spears, R., & Doosje, B. (1999). The context and content of social identity threat. In N. Ellemers, R. Spears, & B. Doosje (Eds.), *Social identity: Context,commitment, content* (pp. 35-58). Oxford, UK: Blackwell.

5）Crocker, J., & Major, B. (1989). Social stigma an self-esteem: The self-protective properties of stigma. *Psychological Review, 96*, 608-630.

6）Crocker, J., & Major, B., & Steele. C. (1998). Social stigma. In D. Gilbert, S.T.Fiske, & G.Lindzey (Eds.), *The handbook of social psychology* (4th ed., Vol. 2, pp. 504-553). Boston: McGraw-Hill.

7）Crocker, J., Voelkl, K., Testa, M., & Major, B. (1991). Social stigma: The affects of attributional ambiguity. *Journal of personality and social psychology, 60*, 218-228.

8）Finchilescu, G. (2010). Intergroup anxiety in interracial interaction: The role of prejudice and metastereotypes. *Journal of Social Issues, 66*, 334-351.

9）Fiske, S. T. (1993). Controlling other people: The impact of power on stereotyping. *American Psychologist, 48*, 621-628.

10）Gaertner, S. L., & Dovidio, J. F. (2000). *Reducing intergroup bias: The Common Ingroup Identity Model*. Philadelphia, PA: Psychology Press.

11）Gaertner, S. L., Dovidio, J. F., Anastasio, P. A., Bachman, B. A., & Rust, M. C. (1993). The common ingroup identity model: Recategorization and the reduction of intergroup bias. In W. Stroebe and M. Hewstone (Eds.), *The European review of* social psychology, (Vol. 4, pp. i-126). London: Wiley.

12）Gaertner, S. L., Dovidio, J. F., Bachman, B. A. (1996). Revisiting the contact hypothesis: The induction of a common ingroup identity. *International Journal of Intercultural Relations, 20*, 271-290.

13）Gaertner, S. L., Rust, M. C., Dovidio, J. F., Bachman, B. A., & Anastasio, P. A. (1994). The contact hypothesis: The role of a common ingroup identity on reducing intergroup bias. *Small Groups Research, 25*. 224-249.

14）Goffman, Erving (1959). *The Presentation of Self in Everyday Life*. New York: Doubleday.

15）Gouldner, A. W. (1960). The norm of reciprocity. *American Sociological Review, 25*, 165-167.

16）Hopkins, N., Reicher, S., Harrison, K., Cassidy, C., Bull, R., & Levine, M. (2007). Helping to improve the group stereotype: On the strategic dimension of prosocial behaviour. *Personality and Social Psychology Bulletin, 33*, 776-788.

17）Kamans, E., Gordijn, E. H., Oldenhuis, H., Otten, S. (2009). What I think you see is what you get: Influence of prejudice on assimilation to negative meta-stereotypes among Dutch Moroccan teenagers. *European Journal of Social Psychology, 39*, 842-851.

18）Kim, J., & Oe, T. (2009). Meta-stereotype as an indicator of intergroup attitude–How Japanese perceive they are viewed by Koreans. *Japanese Psychological Research, 51*, 279-285.

19）Klein, O., & Azzi, A. (2001). How group members attempt to tailor an out-group's representation of themselves. *British Journal of Social Psychology, 40*, 279-293.

20）Koudenburg, N., & Gordijn, E. H. (2011). "My date can call me sweet, but my colleague can't" - Meta-stereotypic behavioral intentions as a function of context and liking of the outgroup. *Social Cognition, 29,* 221-230.

21）Mackie, D. M., Allison, S. T, Worth, L. T, & Asuncion, A. G. (1992). The generalization of outcome-biased counter-stereotypic inferences. *Journal of Experimental Social Psychology, 28*, 43-6.

22）松村　明 (編著) (2006).　大辞林　改訂 3 版　三省堂

23）Oldenhuis, H. K. E. (2007). *I know what they think about us: Metaperceptions and intergroup relations*. Doctoral dissertation. University of Groningen, The Netherlands.

24）Owuamalam, C. K., Tarrant, M., Farrow, C. V., & Zagefka, H. (2013). The effect of metastereotyping on judgements of higher-status outgroups when reciprocity and social image improvement motives collide. *Canadian Journal of Behavioural Science, 45,* 12-23.

25）Owuamalam, C. K., & Zagefka, H. (2011). Downplaying a compromised social image: The effect of metastereotype valence on social identification. *European Journal of Social Psychology, 41*, 528-537.

26）Park, B., & Rothbart, M. (1982). Perception of out-group homogeneity and levels of social categorization: Memory for the subordinate attributes of in-group and out-group members. *Journal of Personality and Social Psychology, 42*, 1051-1068.

27）Pettigrew, T. F. (1997). Generalized intergroup contact effects on prejudice. *Personality and Social Psychology Bulletin, 23*, 173-185.

28）Piwinger, Manfred; Ebert, Helmut (2001). "Impression Management: Wie aus Niemand Jemand wird". In Bentele, Guenther, et al. (Ed.), *Kommunikatio nsmanagement: trategien, Wissen, Lösungen*. Luchterhand, Neuwied.

29）Steele, C. M. (1992, April). Race and the schooling of Black Americans. *The Atlantic Monthly, 269*, 68-78.

30）Steele, C. M. (1997). A threat in the air: How stereotypes shape intellectual identity and performance. *American Psychologist, 52*, 613-629.

31）Sumner, W. G., (1906). Folkways: A study of the sociological importance of usages, manners, customs, mores, and morals.
(サムナー, W. G. 青柳清孝・園田恭一・山本英治 (訳)(1975). フォークウェイズ　青木書店)

32）Swim, J. K., Ferguson, M. J., & Hyers, L. L. (1999). Avoiding stigma by association: Subtle prejudice against lesbians in the form of social distancing. *Basic and Applied Social Psychology, 21*, 61-68.

33）Swim, J., & Stangor, C. (1998). Prejudice from the targets perspective: Introduction. In J. Swim & C. Stangor (Eds.), *Prejudice: The target's perspective* (pp. 1-8). San Diego, CA: Academic Press.

34）Scheepers, D., Spears, R., Doosje, B., & Manstead, A. S. R. (2006). The social functions of ingroup bias: Creating, confirming, or changing social reality. *European Review of Social Psychology, 17*, 359-396.
35）Tajfel, H. (1982). Instrumentality, identity and social comparisons. In H. Tajfel (Ed.), *Social identity and intergroup relations* (pp. 483-507). Cambridge, England: Cambridge University Press.
36）Tajfel, H., Billig, M. G., Bundy, R. P., & Flament, C. (1971). Social categorization and intergroup behavior, *European Journal of Social Psychology, 1*, 149-179.
37）Tajfel, H., Turner, J. C. (1979). An integrative theory of social conflict. In W. Austin & S. Worchel (eds), *The Social Psychology of Intergroup Relations*. California: Brooks/Cole.
38）上瀬由美子 (2002). ステレオタイプの社会心理学―偏見の解消に向けて　サイエンス社
39）Vorauer, J. D., Main, K. J. & O'Connell, G. B. (1998). How do individuals expect to be viewed by members of lower status groups? Content and implications of meta-stereotypes. *Journal of Personality and Social Psychology, 75*, 917-937.
40）van Leeuwen, E., & Täuber, S. (2012). Outgroup helping as a tool to communicate ingroup warmth. *Personality and Social Psychology Bulletin, 38*, 772-783.
41）Wilder, D. A. (1984). Predictions of belief homogeneity and similarity following social categorization. *British Journal of Sorial Psychology, 23*, 323-333.

（指導教員　遠藤利彦教授）